

俳句

【小学1年生・2年生】

特選 ながぐつが雪をばりばりたべている

平田小学校2年 藤原 雄蔵

(評) 冬の季語「雪」の句。ながぐつをはいて降り積もった雪道を歩いている様子を詠んでいます。ながぐつが雪を食べているという発想がすばらしいです。まるで人のように表現すること(擬人化)ができました。さらに、ばりばりという音の表現(擬音語)も大変よかったです。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

特選 なおすけといっしょにたべたいかきごおり

旭森小学校2年 井上 太陽

(評) 夏の季語「かき氷」の句。他にも「夏氷／氷小豆／氷苺／氷金時／氷レモン／氷宇治」などの季語があります。「かき氷」の種類を限定するとより風景が定まってきます。

埋木舎で城主になるまで文武両道を磨いてきた直弼さんに心を寄せている作者が見えてきます。茶道にも通じていたので「氷宇治」の季語もいいと思います。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 こころこめはじめてつくるなすのうし

稲枝東小学校2年 神谷 泉采

(評) 秋の季語「茄子の牛」の句。他にも「茄子の馬／瓜の馬／瓜の牛／迎馬／送馬」などの季語があります。ご先祖の魂がお盆にこの野菜の乗り物に乗って家に戻り、また帰って行く風習から家の外に柵を作って迎えました。こころをこめて作った「なすのうし」の乗り心地にきつと先祖は喜んでいでしょう。「なすのうし」の季語が使えたことが大変よかったです。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 どんぐりでライオンつくったのしいな

城陽小学校1年 辻 雄大

(評) 秋の季語「団栗」の句。他には「くぬぎのみ／団栗独楽」などがあります。毎年、「どんぐり」の句は沢山詠まれますが、転がったり落ちてくる様子の句が多いなか、この句は「どんぐり」でライオンを作ったことがより独創的(オリジナル)で大変良かったです。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 コスモスがきれいにさいたよほくのにな

城陽小学校2年 内崎 陽登

(評) 秋の季語「コスモス」の句。花の句では、「コスモス」や「ひまわり」の句がよく詠まれますが、そのような中でこの句は、「コスモス」の咲いている場所の限定

をしています。下五の「ほくのにな」が効果的です。作者や家族の「コスモス」に対する手入れや愛情が見えてきます。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 さつまいもどこまでほろうここまでだ

城陽小学校2年 二宮 幸太郎

(評) 秋の季語「甘藷」の句。他には「甘藷堀／甘藷畑／甘藷の秋／諸蔓／干藷／藷」

などがあります。「甘藷」の句も多く詠まれています。冬の季語「焼芋」の句も多
いですが、この句は「さつまいも」を掘る状況が詠まれていて、距離の限定「こ
こまでだ」という表現が大変よかったです。

(彦根文芸協会 赤木 和代)



佳作 どく書の秋ほんはたいせつだからもの

城北小学校2年 西川 千尋

佳作 すずむしだいいおとはねをひろげたよ

鳥居本小学校2年 畑 偉月

佳作 コスモスはピンクでいいねコスモスは

鳥居本小学校2年 面村 琉彩

佳作 バッタがねおそらにとんだげんきだな

城陽小学校1年 志萱 桃羽

佳作 大すきなだいがくいもはあまいです

城陽小学校2年 八尾 一咲

佳作 スズムシの歌をきいて音をきこう

平田小学校2年 谷沢 翔

佳作 アキアカネ体の色がきれいだな

平田小学校2年 松山 暁士

佳作 朝はやくおきてさくらのけしき見る

平田小学校2年 小山田 悠

佳作 おにぎりのうめぼし一つおちました

平田小学校2年 廣田 来海

佳作 あきのかぜわるいきもちをふきとばす

城北小学校2年 村田 涼世



入選 かえりみちみあげた空にいわしぐも

金城小学校1年 山本 翔大

入選 秋のくもふわふわおどるとんでゆく

佐和山小学校2年 布施 綾音

入選 どんぐりのぼうしかわいいかぶりたい

佐和山小学校2年 中川 聖佳

入選 空にとぶオレンジ色のもみじのは

佐和山小学校2年 河合 悠伸

入選 まどあけてせり川とおり秋のかぜ

城西小学校2年 中村 友乃

入選 ねこじゃらしねこにふりかけあそんでる

城東小学校2年 寺木 大智

入選 どんぐりであそぶのたのしいおままごと

城北小学校1年 堀部 凌太

入選 まつかな秋しずむゆう日はきれいだね

鳥居本小学校2年 小山 真生

入選 オレンジ色おいしいいろのかきたべる

城北小学校2年 桐畑 凌斗

入選 ゆうえんちクリスマスかざりかわいいな

城陽小学校1年 小齊 なぎ

入選 かわぎしにザリガニがいたかわいいね

城陽小学校2年 竹内 優那

入選 おつきみみてねむたいようしようかな

城陽小学校2年 日夏 一花

入選 すすきがねゆらゆらゆれてきれいだね

鳥居本小学校2年 畑 実里

入選 きれいだね草むらのすず虫なっている

鳥居本小学校2年 小嶋 歌歩

入選 あきがきたあきのはっぱはきれいだね

城北小学校1年 北村 花映



【小学3年生・4年生】

特選 新松子三角形の青ぼうし

旭森小学校4年 井上 璃子

(評) 夏の季語「新松子」の句。または「青松笠」の季語もあります。新しくできた青々とした松かさのことです。まつぼっくりは季語ではありません。いろは松の辺りを歩いて松の木の枝についた小さくびっしりと詰まった青いうろこ状の細片をよく観察し、まるで青ぼうしのようなだと感じたところが大変よかったです。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

特選 水をきりスピードぐんぐんあまがえる

平田小学校3年 益子 朋也

(評) 夏の季語「雨蛙」の句。木や葉の上に乗っている雨蛙を梅雨時によく見かけます。特に雨が降っている時は、すばしっこい動きを見ることがあります。作者は、水辺で観察をしたのでしょう。雨蛙の泳ぐ様子が伝わってきます。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

特選 なおすけもやぎわのやからなつの星

若葉小学校4年 権代 優紗

(評) 夏の季語「夏の星」の句。井伊直弼が彦根藩主になるまでの十五年間、埋木舎で文武両道の修練をして、自分を鍛えました。埋木舎は柳王舎とも言います。埋木舎を訪れ、直弼のことを学びながら、きつとこの場所で直弼も夏の星を眺めたことだろうと作者の寄り添う気持ちが伝わります。

(彦根文芸協会 赤木 和代)



準特選 やぎわのややさしくはぎがゆれている

城南小学校4年 堀田 梨央

(評) 秋の季語「萩」の句。他には「萩の花／月見草／庭見草／秋萩／白萩」などの

季語があります。埋木舎または柳王舎を訪れ、庭に咲いている「萩」を観察した一句。ひらがなの「や」がリズムとなつて、「萩」の揺れを効果的にしています。大変よかったです。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 タすずみ赤い夕日が照れている

城南小学校4年 中村 野乃

(評) 夏の季語「夕涼み」の句。他には、「涼む／橋涼み／宵涼み／夜涼み」などの季語があります。赤い夕日をまるで人のように表現したところが大変よかったです。

「タすずみ」の季語を上手に使って詠めましたね。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 ホウセンカ一雨ごとにそだってる

鳥居本小学校3年 田中 瑠聖

(評) 秋の季語「鳳仙花」の句。花の句は、「コスモス」「ひまわり」「さくら」が多い中、

他の人とは違う花の種類を観察して詠むことができました。花が熟すと自然にはじて種をとびます。カタカナを用いた点もこの花の異質性が効果的に表れました。一雨ごとという表現も上手です。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 ほりのそば風にふかれるなつやなぎ

城南小学校3年 吉田 治旦

(評) 夏の季語「夏柳」の句。春の季語に「柳」があります。春の「柳」との違いは、

春は芽吹いた葉が短いですが、「夏柳」は葉の緑が濃く生い茂り、葉の成長により細い枝が下に垂れてきます。城の濠沿いに生えている「夏柳」のあざやかな緑とさわやかな風に揺れている様子が浮んできます。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 くつわむしみみをすませばすぐちかく

鳥居本小学校4年 小山 夏生

(評) 秋の季語「轡虫」の句。「がちやがちや」という季語もあります。他の人とは違う虫の一種類に注目し、五感の聴覚に集中して虫の居場所を限定することができました。ただ、虫の声を聞くだけでなくその先を探ることができた点がおてがら

です。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 新米はほうせきのようかがやくよ

鳥居本小学校4年 清水 七愛

(評) 秋の季語「新米」の句。米作りを間近で見っていたり、農作業の手伝いをしてい

ると作物への愛情が自然と身につくものです。作者は新米を高価で美しい宝石のようだと感じました。上手に比喻表現(まるで)のよう(だ)が使えましたね。さらに新米のかがやきまで補足することができました。大変良かったですね。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 雪遊びツルツルすべるすべり台

平田小学校3年 内野 雅也

(評) 冬の季語「雪遊」の句。他には「雪投／雪合戦／雪ころばし」などがあります。

校庭に雪が積もると、友達と雪だるまを作ったり、雪合戦をしたりして遊びます。

遊具にも雪が積もりさらにツルツルすべるすべり台となりました。カタカナが効

果的に表現できています。

(彦根文芸協会 赤木 和代)



佳作 むしのねはむかしからでもしたしんだ

稲枝東小学校4年 脇坂 凌生

佳作 秋どくしよブクトークをまちかねる

稲枝東小学校4年 古林 虎之助

佳作 あきのそうひこうきぐもがいちめん

城東小学校4年 上原 有乃

佳作 つゆのときあめふりばかりつまらない

鳥居本小学校3年 土田 瑚珀

佳作 すずしいな草がゆれてるゆらゆらと

城陽小学校3年 北川 圭介

佳作 家の屋根とがったつららとげみたい

平田小学校3年 田中 新大

佳作 おいしいなくりをもぐもぐあと一つ

平田小学校3年 飯田 悠星

佳作 出られないこたつがぼくをはなさない

平田小学校3年 根本 蓮

佳作 お正月バイクの音だやつと来た

平田小学校3年 井上 日和

佳作 やぎわのやいたのしたにはうつせみが

城南小学校4年 中清水 初奈

佳作 まつたけだ焼いて食べようおとうさん

稲枝東小学校4年 高橋 咲良

佳作 ロープウェイレンズにうつるもみじのは

稲枝東小学校4年 近藤 珀斗

佳作 なおすけもおいしいいちごたべるかな

城西小学校4年 徳永 明李

佳作 なおすけのあいようのはなつわぶきさ

城南小学校3年 國安 祐衣

佳作 すいかわりみんなをしんじぼうをふる

若葉小学校4年 洞田 望宙



入選 虫の声自然の中のオルゴール

城西小学校4年 平田 実桜

入選 虫の声夜に聞こえるこもり歌

城西小学校4年 高橋 優月

入選 湖に写るきれいなお月様

城西小学校4年 吉田 創希

入選 あかトンボいつしよに帰ろうおうちまで

城東小学校3年 中田 亜沙美

入選 梅の花ほおを赤らめほころぶよ

城南小学校4年 小林 杏花里

入選 山の中いちようもみじゆれている

城陽小学校4年 宮本 有紗

入選 しちりんていわしをやいてたべたいな

城北小学校4年 澤田 隼翔

入選 おさるがねバナナを食べてうれしそう

城陽小学校3年 山口 琉希

入選 コスモスはみんなくすくすわらってる

城北小学校3年 横井 愛子

入選 ゆう日はね秋のきれいな宝もの

城北小学校4年 近藤 うた

入選 めいげつがみなのかいをうばってる

城北小学校4年 前田 果音

入選 おおどおりぎんなんぼとりおとしてく

城北小学校4年 岩渕 悠太

入選 とんぼたちそらへむかってとんでいけ

城北小学校4年 式部 あかり

入選 秋の月かけを写してしずんでく

城西小学校4年 奥村 佑弦

入選 赤もみじ山頂からはぜっけいだ

稲枝東小学校4年 勝見 結斗

入選 おつきさまもようがかわるくにごとに

稲枝東小学校4年 高井 遼祐

入選 もみじがねあそびたいなどおちていく

稲枝東小学校3年 前田 織甫

入選 朝ばんのひんやり空気秋がきた

佐和山小学校4年 池本 圭吾

入選 やぎわのやきれいなみどりわかかえで

河瀬小学校4年 安田 絢音

入選 色づけばそまる紅葉そまる山

鳥居本小学校4年 川部 大翔

入選 うえ見あげあかくそまつたあきのそら

稲枝東小学校4年 山田 夏菜

入選 こおろぎがにわをジャンプ元気だな

城北小学校3年 川瀬 広太

【小学5年生・6年生】

特選 秋風やろう下にひびくおうえんか

金城小学校5年 大塚 勇毅

(評) 何の応援歌だったでしょう。二学期も始まり運動会も間近に迫っているのでしょうか。秋風のさわやかさと応援の練習に励むけんめいさが伝わって来ます。「ろう下にひびく」という表現がいろいろ想像させてくれます。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

特選 行ってきますかけだすそらにいわしぐも

稲枝東小学校5年 中西 庸介

(評) 朝の元気な登校の様子が「行ってきます」からよくみえて来ます。「罽雲」は秋の季語。晴れ渡った日の空高く秋らしい罽雲が見える中、かけだすのも学校に友達が大ぜいいるようで楽しいですね。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

特選 グランドの全てのかれ葉山積みだ

城西小学校5年 中谷 将大

(評) 「枯葉」は冬の季語です。地に落ちてかさかさ乾いた葉っぱのふきだまりでしょうか。グラウンドのすみにみんな掃除集めたのでしょうか。こんもり積まれた様子がよく見えます。「山積みだ」を「山積み」に」と書く方法もあります。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

特選 文化祭私のきもちおどらせる

鳥居本養護学校 小学部6年 徳田 夏希

(評) 「文化祭」が秋の季語です。学校行事には運動会や課外活動など色々あると思いますが、作者の得意とするものが文化祭にあるのです。「私のきもちおどらせる」と表現して十分に伝わって来ます。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)



準特選 げんかんでおばけかぼちゃがわらってる

稲枝東小学校5年 本持 琉衣

(評) 秋に収穫される「かぼちゃ」が季語です。最近、日本でもハロウィンの祭が若い世代に広まっているようです。作者の家の玄関にも、目、鼻、口の形にくりぬかれた大きなかぼちゃが飾られているのでしょうか。驚きは大切。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 見に行くぞ一足先に紅葉を

稲枝東小学校5年 廣田 慶次郎

(評) 作者の紅葉に寄せる心が伝わる一句です。「見に行くぞ」という意気込み、そしてだれよりも早く見たいのだという気持ちが作品となりました。「初紅葉」という季語があり、その年初めて出会った紅葉の感動を人は俳句に詠みます。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 夏の空花火のようなかんらん車

稲枝東小学校5年 元持 陽

(評) 季語は「夏の空」。この句の場合、花火はかんらん車を描写する言葉であって、季語ではありません。テーマパークや遊園地で見かける大観覧車の姿を大きな花火のようだととらえました。見上げる人も楽しそうです。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 いちごがりいちごがいっぱいおどってる

稲枝東小学校5年 福原 初陽

(評) 季語としての「苺」は初夏のもの、露地苺を指します。うきうきと苺農園へ苺狩りに出かけました。どうぞ摘んで下さいとばかりに実る苺を「いっぱいおどてる」と表現されました。自分の言葉で詠むことが大事です。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 さむくなるお風呂のかんしゃする

城西小学校5年 北村 希実

(評) ほんとうにそうですね。この気持ちは大人も子どももみんな同じです。「お風呂のお湯にかんしゃする」とその時の自分の気持ちを素直に述べてたいへん好感のもてる作品です。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 まどの外台風達が大あばれ

稲枝東小学校5年 竹井 信一郎

(評) 秋の季語、「台風」が大勢でやって来たと感じるところがおもしろいですね。実感でしょう。吹き荒れる様子はまさに大あばれでした。早く過ぎ去ってほしいと窓の外を眺めているのです。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 金もくせいにおいでさそいつかまえる

平田小学校5年 小杉 空吾

(評) 十月の初めごろ、金木屋きんぎやのにおいがどこからか漂って来ます。この句は金木屋の立場から詠んだのです。私を振り向かせて私を立ち止まらせて金木屋の木は立っているのです。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 わたされてバトンのぬくもり運動会

稲枝東小学校5年 藤野 優希

(評) 「運動会」が秋の季語。リレーやバトンを詠んだ句は他にいくつかありましたが、「バトンのぬくもり」まで丁寧に詠まれて良いと思いました。基本の五、七、五は大切です。たとえば「ぬくもり」を「ぬくみ」としてみることも勉強です。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 すず虫がねる時やさしい子守歌

城西小学校6年 福原 みはな

(評) 家の中で飼っている鈴虫でしょう。しきりに鳴いている鈴虫の声が、やがて作者の眠気をさそい「やさしい子守歌」に変わったのです。素直な良い表現です。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

佳作 ひがしずみコオロギのこえなりひびく

稲枝東小学校5年 中村 祐太

佳作 元旦だかきぞめかこうきれいな字

稲枝東小学校5年 春日 楓華

佳作 いちにひきさんびきよんひきせみのなつ

稲枝東小学校5年 薩摩 尚映

佳作 ほんおどりやぐらをかこみなかふかめ

稲枝東小学校5年 宇野 有咲

佳作 わたり鳥みんなについてどこ行くの

城西小学校5年 西田 千夏

佳作 くり拾いこしが痛くてたおれたよ

城西小学校6年 高尾 温穂

佳作 カンムリが冬羽に変わるカイツブリ

城西小学校5年 井口 桜助

佳作 甲子園ふと空みると積乱雲

城西小学校5年 山元 海月

佳作 草の中静かにひびく虫の声

城西小学校5年 後藤 楓歩

佳作 台風は今年何回来るのかな

城西小学校5年 北原 大雅

佳作 虫たちが私をはげますリンリンと

城西小学校6年 井伊 千代

佳作 きのこじるいつもアワビとまちがえる

城西小学校6年 西村 優乃

佳作 秋になり遊ぶ時間がへってきた

城西小学校6年 押谷 武琉

佳作 日焼けの子心をあわせてカヌーこぐ

金城小学校6年 川原 結衣

佳作 なつやなぎかぜといっしょにおどってる

城南小学校6年 堀田 真瑚

佳作 もみじがねふわりふわりとまいおる

城陽小学校5年 坂東 蒼衣

佳作 こうようはやまを真っ赤にするまほう

鳥居本小学校5年 北川 弥和

佳作 はつもうで心入れかえがんばるぞ

鳥居本養護学校 小学部5年 藤川 夏希

佳作 ひこねなし食べるとみんないい笑顔

平田小学校5年 佐野 こはな

佳作 すいめんがキラキラひかるなつのうみ

城南小学校5年 高橋 みのり



入選 いちよの葉明るくキレイに町かざる

稲枝東小学校5年 森 咲香

入選 運動会みんなが笑顔楽しいな

城西小学校5年 中村 啓人

入選 コスモスがおたがい見つめゆらゆらり

城西小学校5年 堀 智紗子

入選 ヒガンバナ真っ赤な色がきれいだな

城西小学校6年 衣川 勇飛

入選 一筆を加えてみたい秋の空

城東小学校6年 川島 久瑠美

入選 コスモスがお花畑でザワザワと

城北小学校5年 清水 音花

入選 いちじくの香りただよう畑道

城北小学校5年 北川 丈

入選 道ばたで虫の合唱耳すませ

城北小学校5年 坂本 久美子

入選 運動会心のバトンつなげたよ

城北小学校6年 村田 世菜

入選 運動会きん張するけどがんばろう

城北小学校6年 吉田 遥斗

入選 タやけが西にどんどんおちてゆく

城北小学校6年 安居 慶

入選 虫の音が夜空に上がりこだまする

城北小学校6年 山内 陽太

入選 リリリリリ虫の音聞こえる通学路

城陽小学校5年 林 柚季

入選 夏休みプールで競争さあやるぞ

城陽小学校5年 山崎 健心

入選 台風でトタンがおよぐ大プール

城陽小学校5年 若林 あかり

入選 アキアカネ畑のうえをとびまわる

城西小学校6年 大森 蓮司

入選 動物は冬じたくする季節です

城陽小学校5年 林 瑚々奈

入選 すず虫の音が聞こえるきれいだな

城陽小学校5年 高田 琉輝

入選 ひまわりが風にゆらゆらゆれている

城陽小学校5年 小川 梨心

入選 春の夜ライトアップの彦根城

城陽小学校5年 實松 奏汰

入選 夏休みごはんの前に甲子園

鳥居本小学校5年 前山 琉人

入選 やきいもでこころもからだもあたためる

鳥居本小学校5年 小堀 要斗

入選 秋の夜とてもしずかできびしいな

平田小学校5年 河元 瑛太

入選 しずけさに心休まる虫の声

平田小学校5年 小杉 海吾

入選 夏休み海でおよいでねる子たち

平田小学校6年 東川 祐太郎

入選 6年生春には制服着ているよ

平田小学校6年 田井中 歩乃佳

入選 裏庭で落ち葉をふんで音鳴らし

平田小学校6年 中江 紗羅

入選 夏の海きらきらひかる魚たち

平田小学校6年 久保田 正弘

入選 夏の道ねこのこうしん一休み

城陽小学校5年 谷口 永真

入選 倉庫から七輪出してさんま焼く

平田小学校6年 西浦 一步

【中学生】

特選 部活動闘志たぎらせバナナ食う

中央中学校3年 田口 滉

(評) 「バナナ」が季語で夏です。実のバナナを詠んだ句は珍しいです。大方はあの大きな葉を俳句に作る事が多いです。

バナナは吸収が早く、エネルギー補給に運動選手など、多く摂取します。作者も部活で闘志たぎらせがんばっている情景が浮かび、秀句になりました。

(彦根文芸協会 松本 トシ子)

特選 夏服に着がえると心高鳴る

稲枝中学校3年 溝口 真唯子

(評) 夏服に着がえる、は「更衣」という季語があります。冬の厚い制服をぬいで心身共に軽く「心高鳴る」と素直に表現し秀句になりました。参考までに更衣を使うと、衿首に風が抜ける、背中や腕はどう感じるかと具体的に述べる事が出来ず。

俳句は省略と具体性が大切です。

(彦根文芸協会 松本 トシ子)

特選 クリスマスサンタくるまでおきている

中央中学校3年 中村 翔

(評) 季語が「クリスマス」です。子ども達にプレゼントを配るサンタは、どんなで自分のところにいつ来てくれるのか「くるまでおきている」のフレーズで、不思議と興味万感のサンタに会いたい気持ちの伝わる秀句です。起きて待っているつもりが、いつしか眠ってしまいます。夢で会えるといいですね。

(彦根文芸協会 松本 トシ子)



準特選 五月晴れ校舎に響く友の声

稲枝中学校3年 加藤 瑞歩

(評) 「五月晴^{さつきはれ}」は、梅雨の最中の晴れ間の事で、季節は夏です。現代の五月の快晴の事ではありません。季語として使う場合は、送りがなの「れ」は要りません。はじめじめした梅雨の中で、とても明るい、晴れやかな「校舎に響く友の声」と一気に詠み佳句になりました。

(彦根文芸協会 松本 トシ子)

準特選 赤や黒金魚をもつてさわぐ子ら

稲枝中学校3年 山田 春奈

(評) 季語は、「金魚」で夏です。金魚すくいの後、ポリ袋には赤や黒の和金や出目金もいるでしょう。友たちと見せ合っている景の見えるたのしい佳句になりました。

(彦根文芸協会 松本 トシ子)

準特選 ミンミンと一日ずっとせみの声

中央中学校3年 末吉 紺乃

(評) 「蟬」には夏に鳴く蟬と、秋に鳴く蟬がいます。「みんなん蟬」は夏の蟬です。声を聞くだけで、暑くなるミンミン蟬を作者は一日中鳴く声に、暑さを感じる佳句です。

(彦根文芸協会 松本 トシ子)

準特選 落葉ふみ音を楽しむ遊歩道

中央中学校3年 田中 惟登

(評) 「落葉」は冬の季語です。公園や丘の遊歩道の周りに、たくさんの落葉が積り、特にどんぐり等の落葉は、乾いた音がします。音を楽しむと言う作者、足を高く上げて歩く様子が見える佳句です。

(彦根文芸協会 松本 トシ子)

準特選 雪が降り町から色を消してゆく

南中学校3年 澤田 康生

(評) 明るかった空に雪雲が広がり、雪が降り始めると、辺りは急に暗く寒さが増す。人は背をまるめて歩き、家々は早くから雨戸を閉ざし、町から明るさが消えます。作者は「色を消してゆく」と確かな目で見て感じました。佳句です。

(彦根文芸協会 松本 トシ子)

準特選 タぐれに草木にひそむ赤とんぼ

南中学校3年 宮越 祐輔

(評) 「赤とんぼ」は、秋あかねとも呼ばれます。昼間にたくさん飛んでいた赤とんぼが、日暮と共に急にいなくなりました。どこへいったのか不思議に思い探したのでしょうか。「草木にひそむ」を見つけました。疑問を抱き考える事は、すばらしい事です。

(彦根文芸協会 松本 トシ子)

佳作 鯉のぼり風にゆられて泳いでる

稲枝中学校3年 辻 穂乃佳

佳作 夜の空花火の音が響きけり

稲枝中学校3年 居戸 優太

佳作 蝸牛道に輝く日をあびて

稲枝中学校3年 田中 美沙希

佳作 晴天の空で泳ぐは鯉のぼり

稲枝中学校3年 元持 華

佳作 紅葉狩真っ赤な世界に迷い込む

中央中学校3年 馬場 悠輝

佳作 毛虫にも名前はたくさんあるんだよ

中央中学校3年 尾本 順慶

佳作 夢を追い東風に誘われ旅に出る

中央中学校3年 藪田 勇飛

佳作 寒空にひとときわ輝く満月よ

中央中学校3年 北村 文乃

佳作 宿題と思い出ぎゅっと新学期

西中学校1年 高尾 健翔

佳作 自転車をおして歩けば秋の風

南中学校3年 福田 真優

佳作 いわしぐもかぜに吹かれておよぎ出す

南中学校3年 北川 風羽

入選 風鈴やかすかな響きも美しき

稲枝中学校3年 藤江 知夏

入選 卒業や友との別れを惜しむかな

稲枝中学校3年 山田 朝陽

入選 五月雨を止めて行きたい修学旅行

稲枝中学校3年 木村 衣織

入選 ドカーンと夜空に響く花火かな

中央中学校3年 小中 翔天

入選 母からの手編みのセーター宝物

中央中学校3年 中江 紗妃

入選 年賀状みんなの個性あふれてる

中央中学校3年 松田 理緒菜

入選 石焼芋く町内響くなじみの声

中央中学校3年 氏原 悠良

入選 甲子園涙と笑顔最後の夏

中央中学校3年 大林 倫菜

入選 ポインセチア近づく夜が待ち遠しい

中央中学校3年 浅芽 立暉

入選 団らんに香り漂うくりごはん

鳥居本中学校3年 南 乃愛

入選 紅葉に光が差せば異空間

鳥居本中学校3年 岡山 未弥

入選 なつのやまうえいくたびにすずしいな

西中学校1年 中村 悟

入選 赤とんぼ夕日を背おって空を飛ぶ

南中学校3年 湯浅 迅

入選 空みればいわし雲がうかんでる

南中学校3年 治島 怜奈

入選 ほくほくだみんなの心とさつまいも

南中学校3年 松林 いろは

入選 赤とんぼ空いっぱいにならないでる

南中学校3年 田中 夢美里

入選 炭火焼こんがりやけるさんまかな

南中学校3年 北村 有輝

【総評】

小学生から中学生の作品につき、基本を重視しながら、選者が丁寧に選句を致しました。

全体的に俳句に季語の無い句や季重ねの句が多いです。その中でも、夏休み文芸ワークショップに参加し、俳句手帳の季語を学び近辺を散策しながら、自然の風物の観察ができ上手に詠めている人も増えています。小学生（一〜二年生）は、「たのしい」「きれいだ」を外して詠んでみましょう。上手に詠めている人もいます。

小学生（三〜四年生）は、図書館にある小学生用の歳時記を見て、友達とちがう季語にチャレンジしてみましよう。

小学生（五〜六年生）は、感性の豊かさや独自性を生かした句を選びました。表現には学んだ漢字も書いてみましょう。

中学生は、過去の作品に類似したものが残り残念でした。辞書にない造語や省略された語を用いると選句対象から外れます。一単語を工夫して表現してみてください。しかし、作品の中には発想を生かしたおもしろい作品もありました。自分独自の写生を試みてください。

(彦根文芸協会)	赤木 和代
(彦根文芸協会)	勝又 千恵子
(彦根文芸協会)	松本 トシ子
(彦根文芸協会)	馬場 美也子
(彦根文芸協会)	野瀬 章子